全国学力・学習状況調査　　嘉穂小学校

1　調査目的等

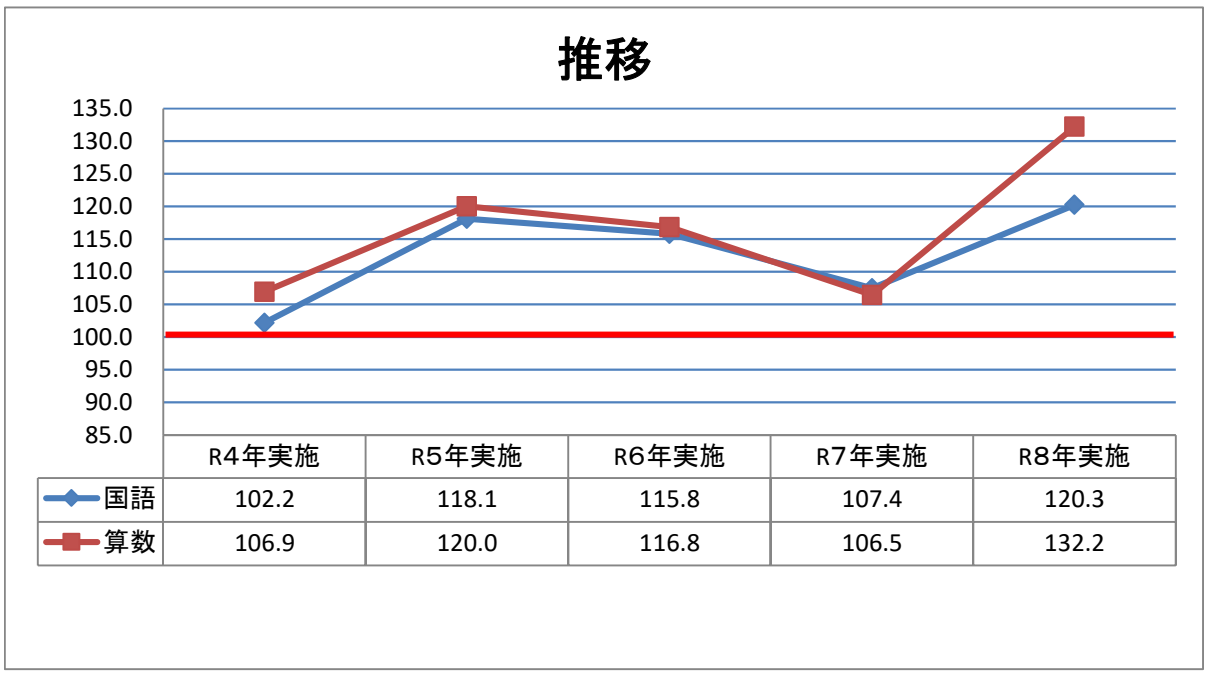
・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2　学校における学力向上に向けての取組

・算数科における各四分位層の児童の理解を深めるため、習熟度別や複数体制での指導を行い、実態に応じた学習展開の工夫する。
・CD層の基礎・基本の力の定着のため、担当教員が個の課題に応じた教材を準備し、補充学習（朝の算数タイム、昼チャレ等）を組織的・継続的に実施する。
・テンミニαやタブドリを活用した家庭学習を行い、スモールステップで課題を克服する。
特に以下の2点についての徹底した取り組み
・記述する力の定着のため、国語科・算数科の学習を中心に、低学年から自分の考えを論理的に書く活動を位置付けた学習活動の日常化を図る。
・語句の関係性を考えたり、条件に合った資料を選択して説明したりする力の向上を図るため、強化月間を設定し、全職員で指導する。

3　調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国　語	算　数
本校	120.3	132.2
嘉麻市	92.4	100
全国	100	100



	R4年実施	R5年実施	R6年実施	R7年実施	R8年実施
国語	102.2	118.1	115.8	107.4	120.3
算数	106.9	120.0	116.8	106.5	132.2

4　各学校における分析

・全国との差が学力四分位層では、国語科（A層：＋17.2 B層：＋4.9 C層：−2.7 D層：−19.2）は、AB層の割合が合わせて17.6ポイント増加している。算数科（A層：＋37.5 B層：−10.7 C層：−7.9 D層：−18.7）は、A層の割合が24.2ポイント増加している。
・国語科においては、読解タイムや「書く活動」を取り入れた授業改革の成果が表れていると考える。算数科においては、重点単元での習熟度別学習や形成的評価を基に、児童のつまずきを把握し、個に応じた指導を行ってきた成果が表れていると考える。また、補充学習（給食前の学習）に担任外教員も活用し、複数体制での組織的な指導の成果も表れていると考えられる。
・領域においては、国語科は「思考力・判断力・表現力」の正答率、算数科においては、「データの活用」の正答率が低い傾向があり、資料を活用して表現したり、条件に合う数を読みとったりする等、思考をする場面の設定が不十分であったことが考えられる。
・質問用紙では「自分で学び方を考え、工夫する」のポイントが低く、自己調整力の育成が必要だと考えられる。

5　各学校における今後の取組

〇算数科において、今後も継続して以下の2点を行う。
・各四分位層の児童の理解を深めるため、習熟度別や複数体制での指導を行い、実態に応じた学習展開の工夫を行う。
・CD層の基礎・基本の力の定着のため、担当教員が個の課題に応じた教材を準備し、補充学習（朝の算数タイム、給食前の学習）を組織的・継続的に実施する。
〇国語科において、特に以下の2点を行う。
・低学年から自分の考えを論理的に書く活動や、グループ・ペアで表現しながら学び合う活動を位置づけた学習活動を日常化する。
・資料を活用したり、条件に沿って読み取ったりする力の向上を図るため、強化月間を設定し、全職員で指導に当たる。
〇家庭学習を通して、計画的に学習する方法や学び方を交流し、自己調整力の育成を図る。

6　嘉麻市教育委員会としての今後の取組

〇分かる授業づくりのために、単元テスト等によるより短いスパンでの子ども達の状況を把握し、個に応じた指導を充実させることで、授業改善を図って いく。
〇子どもの思考活動の充実を図るために、一単位時間の授業の流れのモデルを基にした授業づくりやICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進に努める。
〇家庭学習の習慣化を推進するために、「家庭学習のすすめ」等を活用した効果的な家庭学習の設定について改善を図る。
〇上記の3点について、嘉麻市学力向上検証委員会や主幹教諭研修会等において各校の取組を交流することで、各校における確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、 充実を図っていく。